

“昭和”で暮らしてみませんか



総社市内の昭和地域の人口を増やし、豊かで活気に満ちたふるさとにしようと、昨年の11月定例会市議会で総社市定住促進条例が可決。12月25日、施行されました。この条例により、昭和地域へ定住を目的に住宅を新築や購入、賃借して移り住む人などに助成金を交付します。

この定住促進助成金を活用して、魅力あふれる昭和地域へ移住してみませんか。

■定住促進助成金

定住促進助成金制度の内容は次のとおりです。

対象地区 昭和中学校区

対象者 定住を目的にした①か②のどちらかと、③⑥の全ての要件に該当する人

①対象地区外から新たに住宅を新築か購入して転入（住民票を異動）する人（対象地区内に住民票をおき、同地区内で賃借していた一戸建て住宅を購入する人を含む）

②対象地区外から一戸建て住宅を賃貸借（社宅としての賃貸借や公営住宅は除く）して転入（住民票を異動）する人および貸主

③世帯主が60歳以下で、配偶者が子どもがいること

④5年を超える期間継続して居住すること

⑤世帯に暴力団員などがないこと（貸主も同様）

⑥世帯に市税の滞納がないこと（貸主も同様）

助成金の申請 ①新築又は購入助成金 固定資産税を納付すべき年度内に完納後6か月以内

②生活環境

整備助成金 新築・売買または賃貸借契約を締結後5年以内に1回に限り、該当する整備費用の支払いが完了してから6か月以内（ただし、賃貸借に係る整備の場合は、支払いが完了してから1年以内）

③定住祝

■助成金

区分	種類	金額
新築・購入	新築又は購入助成金 (専用居住部分の固定資産税に相当する額)	年6万円を限度(5年間) ※義務教育終了までの子どもがいる間は年12万円を限度
	定住祝い金	10万円
	生活環境整備助成金	30万円を限度
一戸建て住宅の賃貸借	【借主】定住祝い金	10万円
	【貸主】生活環境整備助成金	30万円を限度

■定住促進助成金Q&A

- Q1 生活環境整備助成金の対象はどんなもの？
- A1 上水道の給水装置の分担金、下水道の分担金、壁や床、キッチン、風呂場など建物と一体となっているものの改修費、カーポートや塀など住宅付帯設備費などです。浄化槽やエアコンなどの物品は対象外です。
- Q2 すでに親が居住している住宅へ移り住む場合は対象となるの？
- A2 対象となりません。
- Q3 貸主は市外の人でも対象となるの？
- A3 賃貸物件が助成対象地区内にあれば貸主の住所は問いません。
- Q4 5年継続して居住することができなくなったらどうなるの？
- A4 特別な事情がないときは、すでに交付した助成金を全額返還してもらうことになります。

い金 助成対象地区への移動日から6か月以内

その他 申請に必要な書類や詳細については、企画課へお問い合わせください

申請先・問い合わせ 企画課企画調整係 (☎02-8213)

■昭和地域の魅力 「英語特区」

昭和地域内にある維新幼稚園、維新小学校、昭和小学校、昭和中学校で行われているのが「英語特区」。幼稚園、小学校、中学校が「五つ星学園」として連携し、豊かな自然の中で一貫性のある特別な英語教育に取り組んでいます。

現在、これら英語特区対象校・園に学区外から9人の子どもが通っています。

来年度の入学・園希望者もすでに今年度を上回るほどの人気を集めています。

文部科学省からも太鼓判が押されたこの取り組みは、昭和地域の魅力。英語のコミュニケーション能力と国際的視野を身に付けた多くの子どもが、昭和地域から育っていくとともに、子どもの数が増え、地域に活気もたらされると期待されています。

問い合わせ 学校教育課 (☎02-833558)

文部科学省のお墨付き

文部科学省初等中等教育局国際教育課 榎本剛 課長



英語特区のイマージョン教育はとてもよい取り組み。コミュニケーション能力を高めることは大事なことです。今後、英語を「読む・書く・聞く」だけでなく、「話す」力が大学入試制度において評価されるようになると、より一層この取り組みが重要になってくると思います。



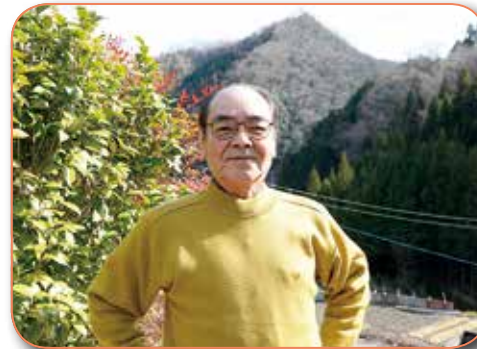
昨年の11月29日、昭和中学校で行われたオープンスクールで、英語の授業を視察する榎本国際教育課長(写真上)。外国人の外国語指導助手と、楽しみながら英語に親しむ維新幼稚園の園児(写真下)

“昭和っていいよ” 地元の声



横山三恵子さん(原難波哲夫さん(影))

維新小学校区は、住民同士が名前呼び合う、温かいつながりのある地域です。春は花見、夏は花火、秋はみこし、冬はそば祭りなど、四季折々のイベントがあり、子どもからお年寄りまで、みんなで協力しあいながら楽しんでいます。顔の見える安心な地域。ここで暮らす子どもが増えることを期待しています。



増子三郎さん(下倉)

関東から移住して15年。町内会や学校支援ボランティアの活動、趣味の登山などを通じて多くの人と触れ合い、交流の輪を広げています。昭和地域は住みやすく、活躍の場がたくさんあるところ。英語を話す力をめきめき伸ばす子どもの姿に驚くことも。日常生活のなかにある自然や伝統文化を楽しんでいます。